

64. 日本経済の景気後退に備えて

2019年3月17日

3月8日の国会は、「景気後退局面」をめぐる国会で論戦、安倍首相は「確実に好循環」

今年の10月より消費税10%の増税がいよいよ開始されるとともに、皆様も「介護職員等特定処遇改善加算」に対する取り組みへの準備等いろいろと忙しい中、昨今、景気後退の話が大きく報道されるようになってきています。

下記引用先：“2019年3月8日【悲報】日本経済、景気後退入りで終わりの始まりか”。バフェット太郎の秘密のポートフォリオ。 <http://buffett-taro.net/archives/36678417.html>

【悲報】日本経済、景気後退入りで終わりの始まりか

内閣府が発表した景気先行指数は予想96.2に対して、結果95.9と予想を下回りました。これは2013年2月以来およそ6年ぶりの悪い数字で、日本経済がリセッション（景気後退）入りした公算が大きいです。



指数を構成する11の主要項目のうち、「中小企業売上高見通し」が前月比-9.0%と大きく落ち込んだことが指数全体を押し下げました。また、「新築住宅着工床面積」も同-7.4%と大きく落ち込み、不動産市場が冷え込みつつあることを示唆しています。

これを受けて内閣府は基調判断を「足踏み」から景気の山が数カ月前にあった可能性が高いことを示す「下方への局面変化」に引き下げました。

2018年12月		2019年1月
改善		改善
足踏み		足踏み
上方(下方)への局面変化	↓	上方(下方)への局面変化
悪化		悪化
下げ止まり		下げ止まり

「下方への局面変化」は既に景気後退局面に入った可能性が高いことを暫定的に示すものであり、仮にすでに景気後退入りしていたとなれば、戦後最長の景気拡大期となる6年2カ月（12年12月～19年1月）に達していなかった可能性が出てきました。

景気減速の主な要因は、中国の景気減速により国内の鉱工業生産指数が大きく落ち込み、生産と輸出が低迷しているためです。

以上 引用まで

私の三条市は、中小企業の下請け企業が多い地域です。

取引銀行や税理士からの話として、中国関係の受注が昨年末から一気に減少しているとの事です。

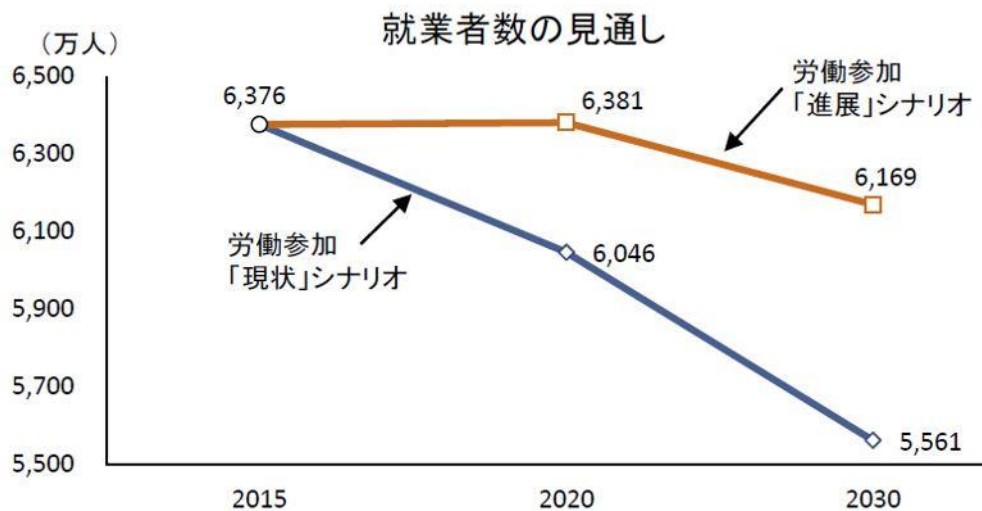
安倍首相が「確実に好循環」と強調しても、景気の後退は現実化しており、今後、米中貿易摩擦問題、イギリスのEU離脱問題、アメリカ経済の「ピークアウト」問題、そして日本の10%消費税課税後問題、東京オリンピック後問題が、より日本の景気後退に上乗せしてくるものと思われます。

不景気になるとリーマンショックの時と同じ様に介護に人が流れてきます。
それがいつになるかはまだ見えていません。

じわじわと知らないうちに始まるかもしれません！

あるいはリーマンショックの時のように一気に押し寄せてくるかもしれません。

しかし、人が流れてきても忘れてはならない事は、日本の国の生産人口は今後加速的に激減する事です。



(出所)総務省「労働力調査」、JIL「平成27年労働力需給の推計」により作成。

株式会社テクニカ HP 高度外国人材の活用 “はじめに”。 <https://www.technica.jp/hajimeni/>

どんなに不景気で人がきても、皆様には下記の3つの事を守ってほしいです。

- 本質的な人材育成の仕組み作りを力を入れる事
- 生産性の向上に力を入れる事
- 入ってくる人材にしっかりした新人育成を行う事

あれ、人がいなくても同じ事ですね！ …つまり、**ブレない**という事かもしれませんね。

今からいざ不景気になった時の心構えしておきませんか、大波がくると流されてしまいます！